講義名:「教養のための医学」2009年 講師名:Toth Gabor博士

講義テーマ:「泣き声から対話まで:人間のコミュニケーション発達」 コミュンケーションで人間の発達について、長体的にあいを出いって、山かりですいハロー 本ペントでとても興味を持、て検業を聞くことのできました. 人間というのは来て人では生きていけたい、他人といいることで自分という存在ので 記載することかでき、それには対話よかいとても重要をいうことからから. メレてその「対話」とは、話がことだけではがない、関くことも質問することも大やで、 様々な要素のら、コシニケーションというものは成り立つまたるれば誕生、マチリ あらべんの時から必要とよれるのである。這くという行動カーコた こても、それはの 明雕了京味川宫手机、九九七理解招后日、親们三十一个三三世中八 他いとでまたい、かさい時成ら多くのことに興味を持ち、よくはい」、 思縁力、そをい、それたよってエシンドーラン能力はの上するし、それはかり ではならく、人間ところの上にまっている。 時国ニャ満希を関いたことで、自分もやらたけんないけないとかあると 展付くことかできた、その分はだけでなく、住涯に渡って彼に夕の季晴しいいあたいれた 講義名:「教養のための医学」2009年 講師名:Toth Gabor博士 コメント5

講義テーマ: 「泣き声から対話まで:人間のコミュニケーション発達」

私は夏休けに福祉施設実習」と行き重症降害児(な)の分と 一緒に過してきたので、今日の先生のお話のはじめの方で "の子吹=コミュニケーション"が成てきた時は、このお話をぜひ 夏休み前に関きたかったと思いましたこ。 私は医師を目指して医学部にいますが、ことも、教育、心理にも 興味があって、もとれと特末の夢は、災連降害の子と生たちの成長を チ伝うこと ナニッナンので、非常に興味深く、今日の授業では関きたりたらい

程でした。おおが、自分自身のコミュニケーションのことも含めて、
教えていたたいたことについてもっと考えてみよりと思います。

講義名:「教養のための医学」2009年 講師名: Toth Gabor博士 講義テーマ: 「泣き声から対話まで:人間のコミュニケーション発達」

赤ちゃんの発達と赤ちゃんと母親のコニュニケーヨンにコいての諸義ではた。当たり前に自分達が、行なってきたり発達、て、学問として学ぶのは初めてでした。なんか、本当に当然の様に意識せどずにこの意までは長をしてきて、赤ちゃんのと見を何を感じて、いってひにに驚いた、かといり事は全く覚えていません。みんなこそろでから、このよう

てより間がはるのだけな、と思いました。一つとは興味深からたの してらなは24才なのではが、多分的あちゃんと母親のユシニケーラン の講義、自分はお腹と照らし合わせて間 このではなら、自分のかり 母親になった時の事を想像としながら、よい話を聞いていた事では、 講義名:「教養のための医学」2009年 講師名:Toth Gabor博士

講義テーマ: 「泣き声から対話まで:人間のコミュニケーション発達」

まず始めに思った事が先生の日本語がすごくよ手い なという事でした。言葉に不自由なく諸義をしていて おとうきました。赤ちゃんは泣き声によって自らかがか 母さんに何をして欲しいかを主る長し、お母さんはその 声を次第に聞きわけて赤ちゅんを世話するように なるという話が、女性としてとても興味深かたです。 実際に赤ちゃんの泣き声を音声で流していただいて 分かりやすかったです。

講義名:「教養のための医学」2009年 講師名:Toth Gabor博士

講義テーマ: 「泣き声から対話まで:人間のコミュニケーション発達」 とても面白いお話で間き入ってしまいましたの当たり前のおなことでも つい気はかけらかったり、気付いていても実行ていけよいことがたくれ あったので本田の講義ではずかにこかたくさんありました。とても 圧倒ないるお話ではたの先生の言めれていたことを気をつけなから / 一個に住かしていまたいと見います。もうひとっ磨いたと同時に すごいと、思ったのは日本語でこれだけのおきなが出来るということです。 自分も代も言語を楽みるということはここまであめつってから言いなければと となり良いむり男なになりましたのありかとうごよいましたの